



細田健司
通院型がんセンター統括部長

て排便しやすくする便秘薬の種類は増えていて、山梨県立中央病院も導入。従来薬では服用が制限されてい

医療

最前線

県立中央病院から

〈252〉

おなかが張っているのになかなか便が出ない…。検査を受けて体に異常が見つからなくても起こりうるのが便秘。便を軟らかくし

た患者らに広く用いられている。

同院通院型がんセンター統括部長兼消化器病センター長の細田健司医師（消化器内科）は「まずは便秘の

原因を探ることが大切」と説明する。便が詰まることで起こる腸閉塞となれば命の危険がある。大腸がんなどの重大な病気の症状かもしれない。同院はレントゲ

薬による治療として、長年広く使用されているのは便を軟らかくする酸化マグネシウム。ただ、血液中のマグネシウム濃度が高い状態となることで発症する

ムは異なるものの、酸化マグネシウムと同じように便を軟らかくする効果がある。同院で便秘と診断された患者は21年度は486人。水分量の管理が必要なため、便秘の悩みを抱えやすい人工透析患者も含まれている。薬の種類が増えたことで、同院でも患者の状況に応じて処方していて、選択の幅が広がったという。

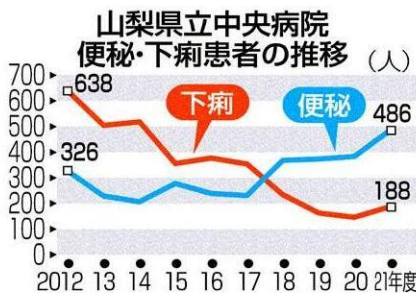
便秘薬 選択の幅が豊富に

まずは原因の解明が大切

ンや大腸内視鏡などの検査を行い体の異変がないかを最優先して確認している。

「高マグネシウム血症」の報告例があり、適正使用が欠かせない。リスクが高いのは人工透析患者らで、副作用の懸念から処方量を慎重に検討しなければならなかった。

一方、同院で下痢と診断された患者も188人（同年度）いる。細田医師は「下痢は潰瘍性大腸炎などの病気のサインかもしれない。しばらく続くようであれば一度は検査を受けた方がいい」と呼び掛けている。



をしっかりと取り、食物繊維の多い食事や十分な睡眠など規則正しい生活を心掛けてほしい。細田医師はそうアドバイスする。

「高マグネシウム血症」の報告例があり、適正使用が欠かせない。リスクが高いのは人工透析患者らで、副作用の懸念から処方量を慎重に検討しなければならなかった。

そうした中、ここ10年で「ルビプロストン」「リナクロチド」など4種類の便秘薬が登場した。メカニズ